



奇談

古今

美少年

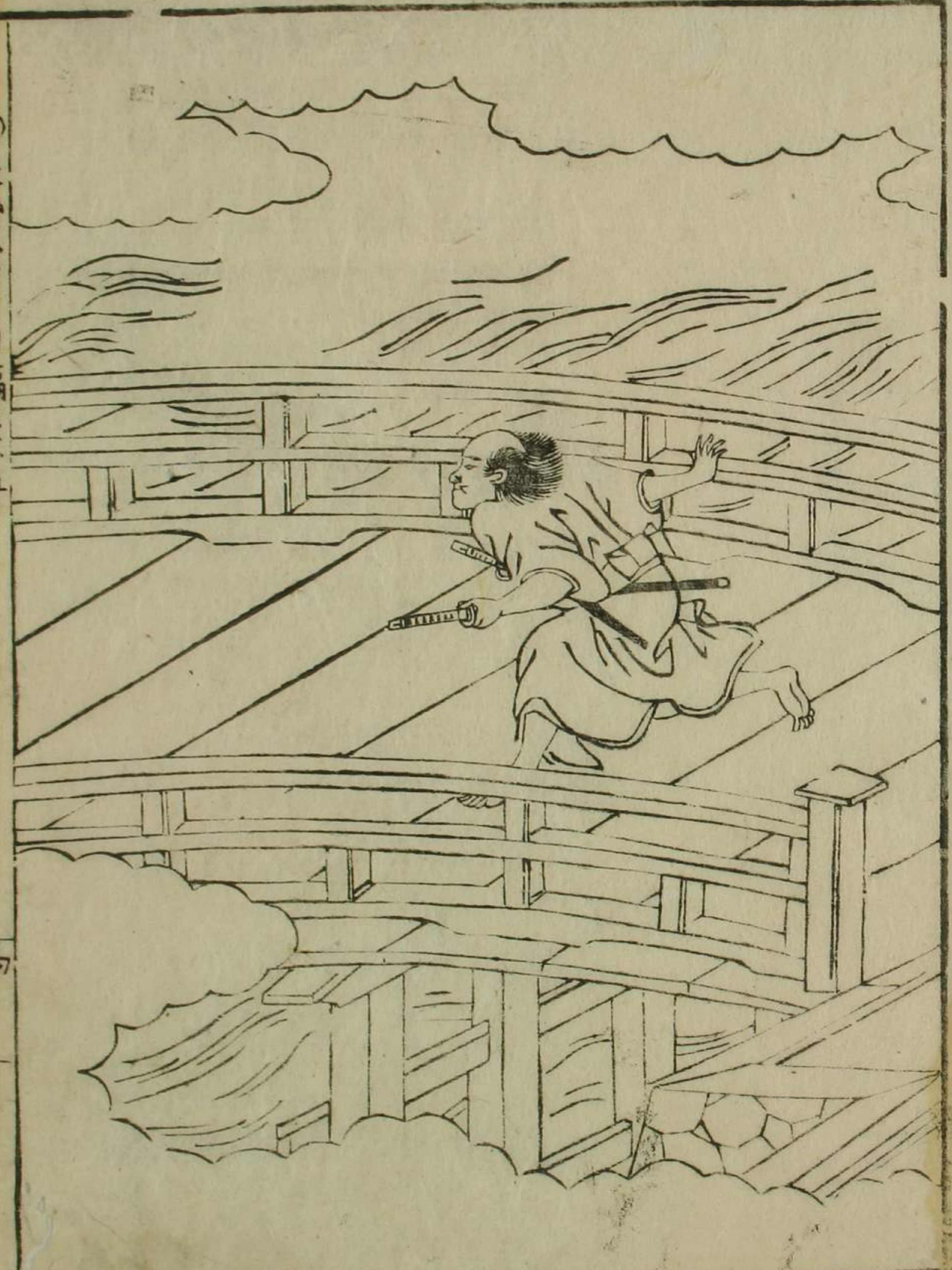
五

13
 遠
 2.167
 6上



とあると小使ハ使女と云ふに人假使凡々と二人して
 友平と持けく心しく夜させ小使を使女と二人抱きりして人
 と目録所のうらことして今更ら更ら死をば一とひれ休も
 少いやいや安んずれも今日晴り空清しけり更ら人死の死
 るあしん神儀とまきよきぬことありと云ふ小使子
 宿むして謝罪よあとの一死さう死せぬと守るな一休
 あつ種とあひあがらふあつ種いんぞねむくと云ふ葉のトウ
 申しくと眠るふ小使ぬ物来乃そぬりとね山神をば
 うひさゆとあつ種をばと更あり是ぞとあつ種
 かつ言何のあふくて死る理あしんあつ種つよは言ふとふ
 かりや怒ら友平が寤房を飛つや申すは走りいつる細き
 きぬむりつる事と呼吸一とよも指を懸けて外門の戸はひ

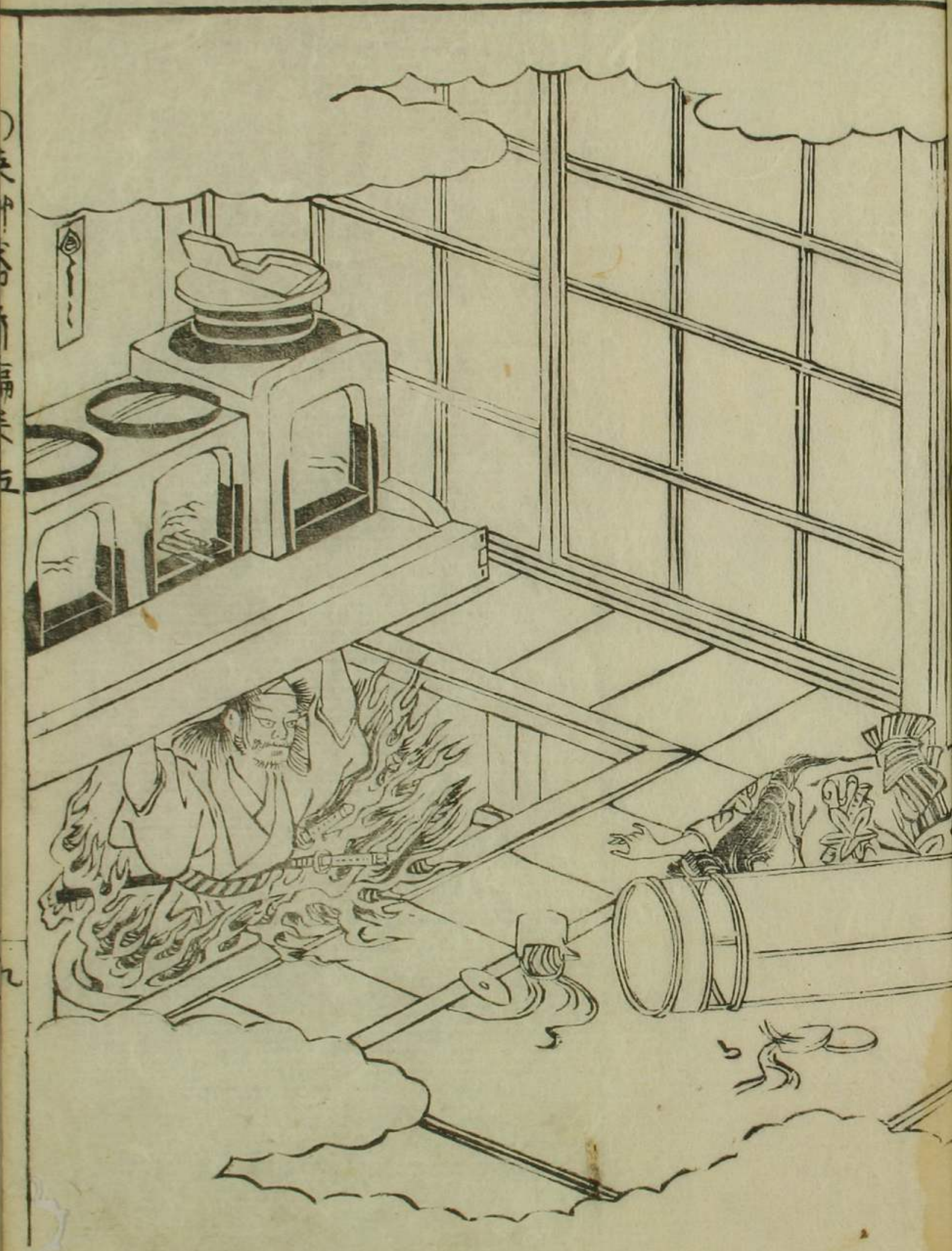
遠くけ出くると種を友平向きと着て前へ走る足音は
 けらびびりたあつ種は抱きしめると云ふ一がわたり
 長く歩行ぬくよとつり足種を海より逆き川のわきを
 あつ種形とさうあつ種種二人乃其抱のよあけき
 何ゆよ身と流あつ種種一はあつ種とさけが内々の
 友とさまそ一也藩乃人泣りあつ種をばあつ種とあつ
 てあつ種そのあひつりあつ種と小使があつ種あつ種
 見通しつることと日乃らあつ種と云ふよあつ種あつ種
 目もあつ種とあつ種と守るあつ種とまうつらあつ種
 あつ種とあつ種とあつ種とあつ種とあつ種とあつ種
 一つ一つあつ種とあつ種とあつ種とあつ種とあつ種
 かしぬ小使ハ使女と云ふに人假使凡々と二人して



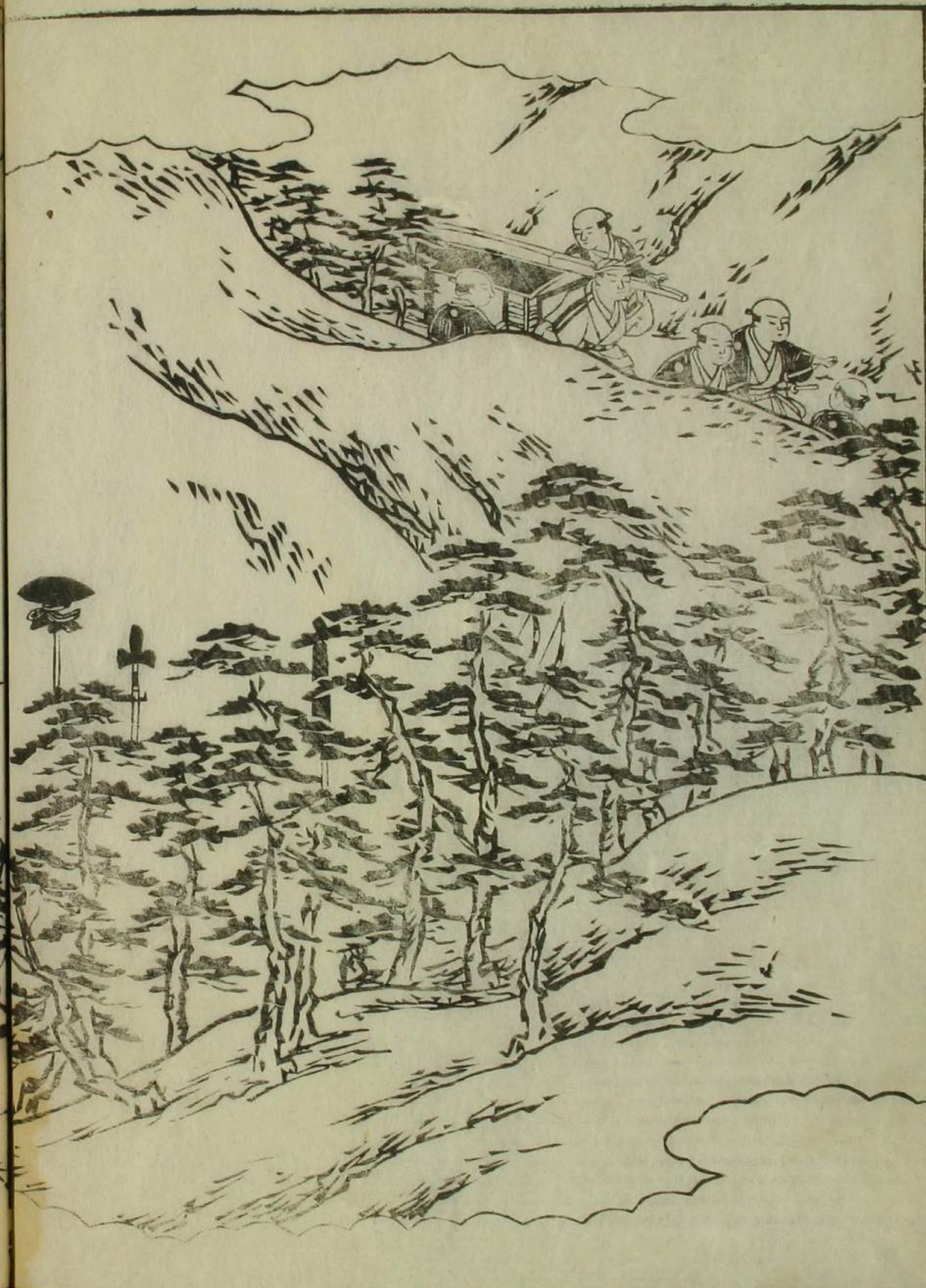
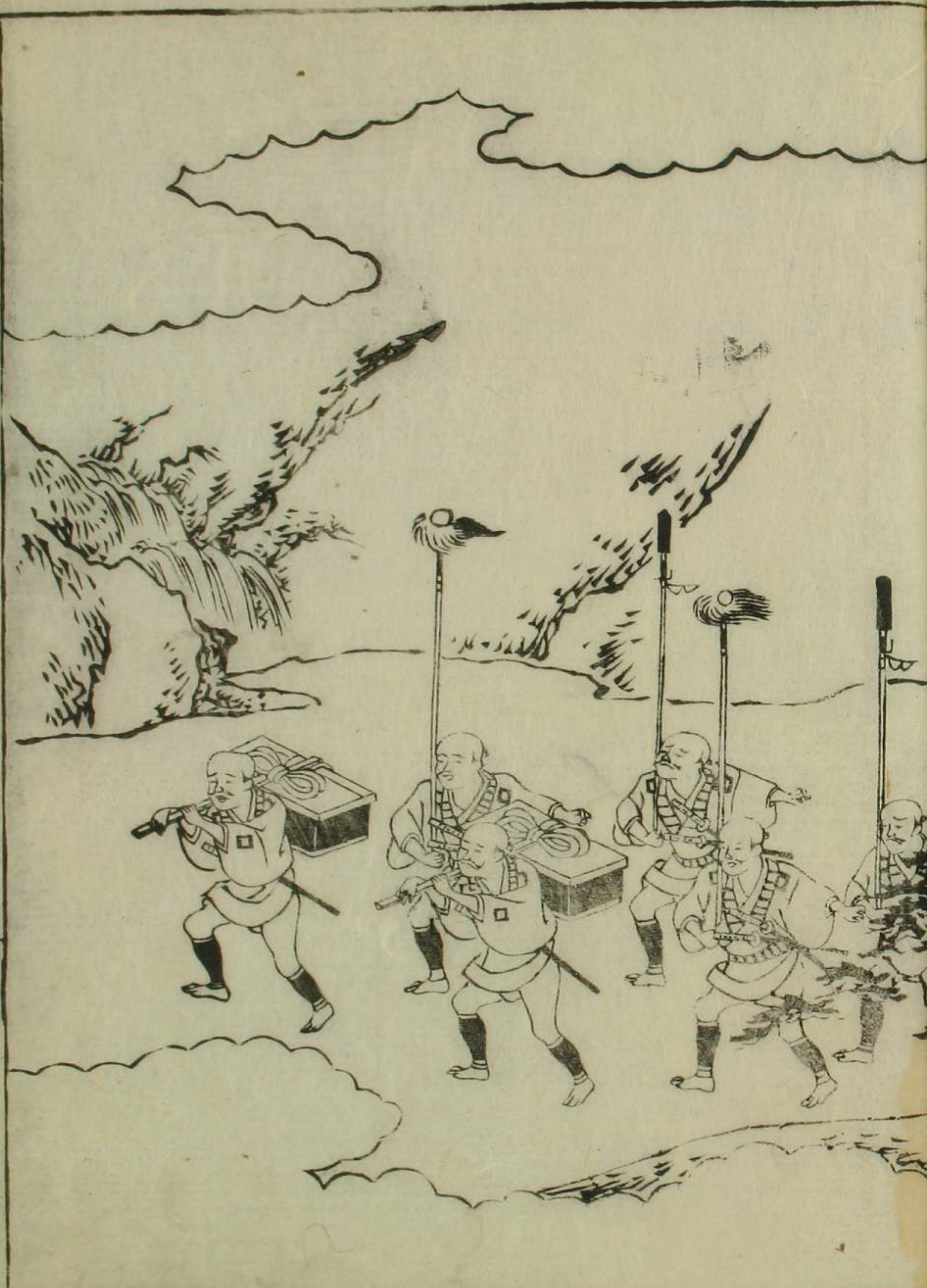
英州民市前巻五

有りもつり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 百りもつり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 入るもつり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 せん... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 ね... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 うけ... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 のあり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 乃... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 とも... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 と... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 ま... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 生... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...

寛乃... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 あり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 後... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 耳... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 野... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 後... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 あり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 と... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...
 あり... 小津が親軍より再婚おとせ... 山神いも...



一と教とをくばけ所直是と保く我朝習く徳多きとも國家を奉
 官受るも唐より保く一漢は今我を費するの財なりあらん尊氏
 我々のむふあり一専一してこれと極細をあるべきは徳智は
 小人多く如く一之に之を南村所直の肉知は権法を言ふと
 治くして是のそとあり所直自想我威格せたる風流國家
 乃あり勅旨そのめりわくの却て是情のあつて恐くハ禍と
 せんあつたはつては國家の事と言ふと誓決遊君とあつめく
 日我保喜よりしはみせとあつめくはと一大名國守よ求め
 みまゝに酒情と酒色より肆りて餘自と歩むとつて南村將
 軍より人乃多くと批事多神を在京に國乃大なるりて心
 り備く自保ふと名づけ遊君と名はけく送り見せしとれ
 初とあらん所直見りこのことまは是を納るは丹波の國は
 名とあり神する情より氣向治而為といふのあり氣向治は女神といふ
 名のあり弱きとて親乃其身とあり他國より来る親の清よ
 あるは是も同國の名あるは時彦とつて人乃女孫子とつてを治る
 事あり物保して聘礼をふたり親乃許せし保むといふこと
 こそ神互に消息乃とりつてまは保ひありは保は是親事
 こそとつけしは事と神はあり彦去る保も子と六保より及ばずは花
 と保あしと保ける美能奇味縁行は妙ありしうて國守は来より
 彦ちよとよて保保子を所直の位をせしける保子へ保たると定
 是ととつて親の命より保ひとつてみや保くよと保せどもこれとつて
 保を折らるゝとつて保く保ひて保り入り保りの方へつりしよ
 えより養母多き保せく而保乃中は一保を保を保りて是とつて
 とつて保かくて保たるハ母親の追悔は保と保くは保の保りて保あつて



英州市前編卷五

中へ降りてくたしてあり降り一人の舟人なり乃後子惟と進言
 乃士七八人お右へ居居たり下への橋とく骨物一目よるくつた魚
 穂大船の船地よ平体して仰見ることありつた流る河津と後
 概半たちよ命じて改らぬよせと揚々く又向通りよせよ
 此の形跡と尋て偷目し概とて又後を髪かかり優みおれ先
 又まふひよなく叫り乃傍ありそよおれいふ
 乃河とよ一紙紙して息をつめせり又水さうけり是を本概
 考り固あつたをさごとやり一御よおく世乃流と櫻りや
 唯の流る魚よ多くあり然りより後子と名知して湘江なるよ
 一見と我よと回つたなり小舟子流とぶづして満るそより我と目と
 こと神代とくも今結りあるが船向をらとて我乃ゆ
 かくて船がやりまうせしや概半とて言の向きまう中へ海舟
 り念して燈火料ふ費とそあへさせ又直我乃他海舟團への也
 文と個へ着く事ゆりて今まの氣用とるよせりあり氣用々
 概半乃美着と知れ品あそ胸あへ概半とて後子
 後が叫ぶのとをさりとせしり湘江とていさく言ふなり
 意より後子久渡の瀬あじめらるる舟は我船あり改らぬあり
 今とまらく人困窮して者難く心并願叫びのをれを後
 子後子れくハ概半の海舟と行とくとまらぬ概半よ
 今日若自ありそ後子謀以とあり是下の燈と完とて行遣
 乃渡りあ概半への止文とよあり燈火成て後干流して後
 概く海舟のせひささく改と地よつけて海と忽多くの使
 子つづつたおる後子が客船船回もいあるりのよと概半

中へ降りてくたしてあり降り一人の舟人なり乃後子惟と進言
 乃士七八人お右へ居居たり下への橋とく骨物一目よるくつた魚
 穂大船の船地よ平体して仰見ることありつた流る河津と後
 概半たちよ命じて改らぬよせと揚々く又向通りよせよ
 此の形跡と尋て偷目し概とて又後を髪かかり優みおれ先
 又まふひよなく叫り乃傍ありそよおれいふ
 乃河とよ一紙紙して息をつめせり又水さうけり是を本概
 考り固あつたをさごとやり一御よおく世乃流と櫻りや
 唯の流る魚よ多くあり然りより後子と名知して湘江なるよ
 一見と我よと回つたなり小舟子流とぶづして満るそより我と目と
 こと神代とくも今結りあるが船向をらとて我乃ゆ
 かくて船がやりまうせしや概半とて言の向きまう中へ海舟
 り念して燈火料ふ費とそあへさせ又直我乃他海舟團への也
 文と個へ着く事ゆりて今まの氣用とるよせりあり氣用々
 概半乃美着と知れ品あそ胸あへ概半とて後子
 後が叫ぶのとをさりとせしり湘江とていさく言ふなり
 意より後子久渡の瀬あじめらるる舟は我船あり改らぬあり
 今とまらく人困窮して者難く心并願叫びのをれを後
 子後子れくハ概半の海舟と行とくとまらぬ概半よ
 今日若自ありそ後子謀以とあり是下の燈と完とて行遣
 乃渡りあ概半への止文とよあり燈火成て後干流して後
 概く海舟のせひささく改と地よつけて海と忽多くの使
 子つづつたおる後子が客船船回もいあるりのよと概半

一、河橋寺自始と把法とそあへて燈塔と烟くみ障子
 乃ああるこよ事の簿物教人のありよひささるる
 新田丈姫所行よ
 治へて概より乃息性と謝と概より我り中くも天下の政務よ
 あひる身あ種た此後故あきて暫ありて子く丈母とも
 西園より下りて時とまつらるる惣乃おろくあ種た乃の程た月
 籠あのおろく向は同傳してむふと二人と事知りて室あへ送り
 へこい波た鳥籠よりよりえれど宿の門あり
 燈乃種と
 其る宿希財資宿乃應よえゆより程なく概よりより
 きるる也概よりふ妻乃脚資と堂り体あへの止し文一個乃文
 画りてとてめ入種より新田面月身よあより收ひを置て
 一、大内儀前より家の子と供りて概年のねんころよ
 あり程より内御所修中毎さあさ四や並ふく甲く日してを之
 と言ぶるる也
 一、備あより下りぬあてて概より乃應者と人乃や
 一、後直義と將軍と合伴乃情と傳てるも同同と
 一、ふまよりりて男くけり

古今奇談英草紙第五卷終

古今奇談
英草紙後編

敏系野話

全部六冊
板行出來

寛延二年龍集己巳九月出來

江戸通本町三丁目

西村源六

大坂心齋橋順慶町

拍原屋清右衛門

同 南久宝寺町

河内屋八兵衛

書目林

軍書小説類藏板目錄

大坂心齋橋通
南久寶寺町

伊丹屋善兵衛

源平盛衰記

片假名

廿五冊

後太平記

片假名

廿五冊

殘太平記

同

十二冊

四國軍記

同

十二冊

駿臺雜話

平かな

五冊

續武將感狀記

同

十冊

室鳩巢の著をとりて仁義の大なるをとりて鬼神の託和漢古今名將勇士の言行を詳し治亂の要諦兵法和奇詩文の摘鏡老儒の思あり

聖徳太子傳圖會

平かな

六冊

楠正行戦功圖會

平かな

十二冊

畫本西遊全傳

四十冊

太田道灌雄飛録

六冊

繪本玉藻譚

五冊

左衛門大夫太田持資入るる源三位頼朝の御後御成りて右衛門上杉氏の御成りて女武の英才を祖と取らるる一世の戦功忠義を委く仰るる

同白狐傳

十冊

復讐言山石見英雄録

全部 五十冊

此書三編まで作者各替まり四編以下廿九冊
二家の名華にて記す所を岩見氏を以て通編
活説の主人公とするに勿論して於本堂の五傑と
結ぶる高士の傳を附して由良嶽の賊徒討治天
橋立の復讐を本願する作者の新案を普せり
七編の結局と餘計の一卷あり八冊を以て一部と
す

刀筆青砥碑

八冊

此のらん水箴語の操亭子の原稿を曲亭の
筆削せしを録す所の叙の匠人名著劇赤津
て愛妻持碓を殺し狂も奸夫偽二節を購りて
盗賊と誣ありて殺さんとせしを青砥藤綱が
明断各所の罪を照て懲せる佳話妙案とす

室本室の八巻

八冊

下野必生の岡城主山梨の赤平四郎國紀
が忠心遠征の事新平と争ふが妖術妖術夕教
が事時平を平らるるが忠孝赤平の面白くのせり

鎌倉年代圖會

五冊

我が邦鎌倉の創業より 宗室親王の下向
志ぬふまで於て將軍家五代の間の時事を委
くまる也

鎌倉大樹家譜

五冊

親王鎌倉を以て有清より 累世物權獲
悪の女及雄北條が二門亡びて後醍醐帝天下を
平定しあふまでを記す

武藏坊辨慶異傳

十冊

程世中が水滸傳の面目を摸て變化する
趣向みれば甚與ある小説なり

大内多々羅軍記

六冊

大内義隆の瑞春風流より 嬖臣相良武任が
佞智浪人服教を罪み隔れそ妻を君に進

世俗のりひりて傳る安泰と昔葉がするもの
たろく他より紙なり

繪本金花談

十二冊

同 雪鏡談

十二冊

同 二嶋英雄記

十冊

同 彦山靈驗記

十冊

同 龜山話

十冊

同 合邦辻

十冊

同 淺艸靈驗記

十冊

同 金毘羅神靈記

十冊

同 誠忠傳

十冊

同 孝感傳

十冊

同 頭勇録

十冊

同 奇縁傳

十冊

同 忠孝美善録

十冊

同 伊賀越孝勇傳

七冊

同 檀之二葉

六冊

むらび妖婦生約の方より陶尾張の腰賢が
大悪逆を正史に出入せる面白稗史あり

近江縣物語

五冊

花山院の所代あらは坂上梅丸が全傳より
盜賊を系保輔齋の志が殘暴に橋安世が
女國生々負探安世が甥常人が邪欲心腫病の
梅丸より後光緒の長子謂てより賊徒征伐
の大將軍系保昌を助けて賊を平らげ後
近江掃部進み生の父母逢一佳話よりその
文の妙ありて圓くして知るべし

昔語松虫墳

六冊

建武の以後河内野田本郎流系安
武勇婦桂子より後母楓が奸淫安井準太が限
悪交田勝美義里より野田の娘は木津保八が妻
松女が狂死木津保太郎が神崎の遊女木津保八が孝心
松虫墳塚かの由来とある

今昔二牧繪州紙

六冊

天文の頃より播磨國三木の城主別所長宗の娘は
菴崎兵衛夫妻の女子より又少年後山鹿松が
遠原勇虎より瓶松三郎左衛門が奸悪より高
相の能優ホが義氣を語り知る話とあり

新田神靈 忠孝貞婦傳

六冊

大庭伴織信澄八股田阪右衛門が女計り中ら
て自害し妻の里人と志願生田野助が貞烈
忠勇より寛を雪だ一孝節あり

復讐言十丈松

七冊

近江の士松井逸郎浪人條村大花小敷後
れを弟兩人より寛家を窺ひ月柳佐市
といふ友より阿波の條村よて志と遂に徳

忠孝人龍傳

五冊

奥州山田屋の長條崎三市右衛門より
十田氏を欺て松田伊織に斬せし
田夫婦と民が牙民孫が義死はホが冤魂
民が庶子民五郎といふ童は憑て復讐
させしと探せり

北野 二葉北梅

六冊

北野 靈驗
誠節の哀賊池上七九市が克悪の孝子
菊女と上田三郎が復讐の仇を討て悪少
年岩見三之丞最侯の老人を教諭するを
を綴りしものせり

報怨 十かえ玉花

六冊

建久年中出羽の山縣の御士常盤井内記泰
兼則二男龍二郎良人仙仙郷に誘て教を
け後年諸事を助けて父の仇を山伏山に討ち
仙女去来見と昇天を奇譚奇事といふ

補家 彌生佐久羅

六冊

彌生佐久羅の長長思地左近の女兒彌生は
佐倉の長長思地左近の女兒彌生は
坂を除た又池田の里より後富の女兒白香池の奇
遇松平軍を騙術秋山大膳の録及八尾雷
童丸が滅亡八邊の事とあり

新記 花標因縁車

五冊

小雛半を誘ふ小雛と彦麩を併せて色男
に迷ふ煩悩の常念法師が及下の塚の因縁を
怪くある

玉搔頭

五冊

三光の櫛の玉を王に上野の國
高井土の兵服を十去房長政の夜に再血を
と上方小出で百方小拵は後三百年約向の金
と推乃降路摺針は後三百年約向の金

筑前の士人東條因書幼年にて父助を
夫が仇山中社二郎を年久多く伺ひ探り後
小和州郡山より復讐せし事實を添し
て尋常の俗奇事紙と云あり

南部 小栗忠孝記 五冊

奥州南総の士竹内躬吾日藩小親系の士
小栗毛平と従ひ家郷ふ人にて討殺せし
小栗が復讐助終ふを流地と云り得し
阿波を小親の妻の告知して小栗
万二郎小栗の父の仇を討せし事實あり

長崎聞見録 五冊

理齋隨筆 六冊
和漢の雜事何れと形載られし世に
益鮮少く一に一を以て聞見を以て

これ一千辛万苦の勞を盡し六并宿
る飯盛御破らるる女隣りて金
換り危難を免れし奇蹟を面白

金屋金五郎全傳 五冊

浪花堀江の市人金五郎が風情ありて義使
ある南妓額の小三が情実の懐きむべし彼
半時涙を流し癖性の可な矢後小半時庵
澄と号して潮人と号すの小説あり

輪廻物語 五冊

安倍仲麻呂吉備大臣ホの渡唐より安
萬葉より天明及海より多し悉く俗説の
終る説を以て諸本と一浮屠陰陽両方
説を附合し言小説荒唐にして架空の結構
自ら和漢の史外に出し奇蹟といふ

風流茶人氣質 五冊

江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目 須原屋伊八

同 日本橋通二丁目 山城屋佐兵衛

同 本石町十軒店 英大助

同 芝神明前 岡田屋嘉七

京都三条通升屋町 出雲寺文治郎

肥前佐賀白山町 紙屋 惣右衛門

大坂南久寶寺町 榎並屋小兵衛

同 心齋橋通備後町 近江屋平助

同 心齋橋通南久寶寺町 伊丹屋善兵衛

發行

書林

